

Hyperion® Analyzer

リリース 6.5



新機能



Hyperion®

Hyperion Solutions Corporation

P/N: D750965000

Copyright 2003 Hyperion Solutions Corporation. All rights reserved.

Hyperion, Essbase and the "H" logo are registered trademarks, and Hyperion Solutions is a trademark of Hyperion Solutions Corporation.

Hyperion、Essbase および "H" ロゴは Hyperion Solutions Corporation の登録商標です。
Hyperion Solutions は同社の商標です。

All other brand and product names are trademarks or registered trademarks of their respective holders.

他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

No portion of this manual may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying, recording, or information storage and retrieval systems, for any purpose other than the purchaser's personal use, without the express written permission of Hyperion Solutions Corporation.

購入者個人で使用する場合を除き、Hyperion Solutions Corporation の書面による明示的な許可なく、複写、録音、情報蓄積および検索システム等の電子的、機械的ないかなる形式または手段によっても、本書を複製または転送することはできません。

Notice: The information contained in this document is subject to change without notice. Hyperion Solutions Corporation shall not be liable for errors contained herein or consequential damages in connection with the furnishing, performance, or use of this material.

注意: 本書に記載されている情報は、予告なしに変更される場合があります。Hyperion Solutions Corporation は、本書の誤り、またはその設置、性能、あるいは使用によって生じた損害に関して一切責任を負いません。

Hyperion Solutions Corporation
1344 Crossman Avenue
Sunnyvale, CA 94089

Printed in the U.S.A.

目次

Hyperion Analyzer リリース 6.5 新機能	7
Java Web Client の新しい機能.....	7
次元ブラウザ.....	7
分析ツール マネージャ	7
トラフィック ライト	7
表示 / 非表示の制限	8
データの制限	8
上位 / 下位のみ取得	8
レポート マネージャ	8
印刷	8
印刷内容	9
出力オプション	9
[ヘッダー / フッター] タブ	9
書式	9
指標の書式	9
ユーザ設定 - デフォルトの書式	9
レポートの書式	9
データの書式分析ツール	10
セルの書式	10
その他の書式オプション	10
スプレッドシート オプション	10
チャート プロパティ	10
データ表示オプション	10
列のサイズ調整	10
次元ヘッダーのソート	10
右クリック メニューの変更	11
電子メールによる URL の送信	11
Web 発行	11
関連コンテンツ	12

データ編集モード	12
レポートのデザイン モード	12
SQL スプレッドシート コンポーネント	12
別名コントローラ コンポーネント	13
マルチレベル コンボボックス コンポーネント	13
カスタム レポート コンポーネントの書式設定	13
アンカー、配置、均等配置	13
不透明色と透明色	13
書式設定の要素と選択コントロール	14
選択メンバの並べ替え	14
インデント オプション	14
異なるデータソースへの再リンク	14
動的次元メンバのコントロールの作成	14
新しいサービス機能	14
リレーショナル アクセス	15
カスタム レポートの SQL スプレッドシート コンポーネント	15
リレーショナル ドリルスルー	15
リレーショナル データベース接続 (ROLAP) の定義	16
EIS ドリルスルー	16
HTML Web Client の新しい機能	16
HTML Web Client ユーザ インターフェイスの変更	16
HTML Web Client のレポート作成ウィザード	17
HTML Web Client の次元ブラウザ	17
関連コンテンツ	17
インストール	17
Administration Tools の認証サービス	18
認証オプション	18
Analyzer 認証	18
Essbase 認証	18
外部認証	18
単一サインオン	19
グループのインポート / エクスポート バッチ ユーティリティ	19
インポート バッチ ユーティリティ	19
エクスポート バッチ ユーティリティ	19
Web 発行バッチ ユーティリティ	19
Essbase XTD Deployment Services (EDS) の設定	20
HTML テンプレート、トークン、タグおよびアクション ライブラリの改訂	20
管理ツール API	20



Hyperion Analyzer

リリース 6.5 新機能



Java Web Client の新しい機能

次元ブラウザ

次元ブラウザでは、グラフィカル インターフェイスを使用したメンバの選択とデータベース クエリの微調整が可能です。次元ブラウザは多くのデータベースに対応しています。ユーザによる設定やサポート スタッフによるプログラミングは必要ありません。ポイントアンドクリックによる選択操作だけで、データベース クエリの作成と編集を簡単に行うことができます。

次元ブラウザの改良点として、次元ノードツリーにデータベース接続名が追加され、データベース固有の詳細なメンバ選択方法や、次元ごとにラベルのモードを設定できる機能が追加されました。

分析ツール マネージャ

分析ツールの定義は一元管理され、分析ツール マネージャでの指定によって適用されます。

分析ツール マネージャの改良点として、定義を適用する順序を指定できるようになり、ユーザ設定とスプレッドシート オプションによって適用される定義が追加されました。

トラフィック ライト

トラフィック ライトの定義により、次元メンバの値に基づいてデータ セルが色分けされて表示されます。2つの次元メンバの比較や1つの次元メンバの固定された制限値に基づいて色分けを設定できます。色を使うと、メンバの値がソートや順位付けをされているかどうかにかかわらず、メンバの値を視覚的に関連付けることができます。トラフィック ライトの定義は、レポートのピボット時や変更時にも保持されます。

トラフィック ライトの改良点として、特定の色ごとに、不透明度と透明度の割合を設定できるようになりました。これにより、以前のようにトラフィック ライトによってスプレッドシートの背景が隠されてしまうことがなくなりました。

表示 / 非表示の制限

表示 / 非表示の制限分析ツールでは、メンバ名、トラフィック ライトの色、またはデータ値の基準を使用してメイン表示パネルの次元メンバを挿入または削除できます。これは、分散した値を分析するときには有効な手段です。

表示 / 非表示の制限の改良点として、すべての選択メンバまたはすべての計算されたメンバを表示または非表示できるようになりました。

データの制限

データの制限分析ツールは、戻り値セットを絞り込む手法の1つです。このツールでは、指定したルールおよびオペランドにデータ値が関連付けられている必要があります。列同士の比較や、1つの列で固定された制限値を使用してデータを制限できます。

[データの制限] ダイアログ ボックスのデザインが一新され、データの制限の定義を簡単に作成、編集できるようになりました。

上位 / 下位のみ取得

上位 / 下位のみ取得分析ツールでは、Hyperion Essbase サーバベースのソート機能と表示順位機能を利用して、クエリ結果セットのサイズおよび順序を制御します。これにより、ネットワーク サーバやクライアントが大きなサイズの結果セットを送信したり、処理しないようにできます。

[上位 / 下位のみ取得] ダイアログ ボックスのデザインも一新され、上位 / 下位のみ取得の定義を簡単に作成、編集できるようになりました。

レポート マネージャ

レポート マネージャでは、操作の簡単なインターフェイスを使用して Hyperion Analyzer レポジトリからレポートを抽出できます。

レポート マネージャの改良点として、レポート グループを名前、説明、作成日、最終変更日によって並べ替えできるようになりました。これは、大規模なレポート グループ内で特定のレポートを検索する際に役立ちます。

印刷

印刷オプションをすべて一元的に制御するための [印刷] ダイアログ ボックスのデザインも一新されました。

印刷内容

次の 2 種類の内容を印刷できます。

- [画面の印刷] では、メイン表示パネルを印刷します。
- [選択したオブジェクトの印刷] では、現在のデータ オブジェクトで指定されている OLAP ページを印刷します。

出力オプション

メイン表示パネルの内容は、デフォルトのプリンタに印刷したり、PDF ファイルや JPG ファイルに出力することができます。

現在のデータ オブジェクトもデフォルトのプリンタに印刷したり、PDF ファイルに出力できます。

[ヘッダー/フッター] タブ

[ヘッダー/フッター] タブでは、出力するヘッダーおよびフッターを定義できます。また、ヘッダーとフッターの両方に動的テキスト ラベルを追加することもできます。

書式

書式オプションが再編成および拡張され、レポート内の書式の範囲と種類をさらに詳細に制御できるようになりました。

指標の書式

指標の書式は、特定のデータベース接続で指定されている次元に対してグローバルに適用されます。この設定は、データベース接続の定義の一部としてレポジトリに保存されます。

ユーザ設定 – デフォルトの書式

ユーザ設定のデフォルトの書式は、すべての列ヘッダー、行ヘッダーおよびデータ値にグローバルに適用されます。この設定は、ユーザ設定のデフォルトとしてレポジトリに保存されます。

レポートの書式

メイン表示パネルの右クリック メニューにある書式オプションは、指定された次元メンバに対して特別な書式を適用します。定義済みの書式は、レポート定義の一部として保存され、予備的な分析ツールの定義として適用されます。

データの書式分析ツール

分析ツールのデータの書式は、その定義が作成されて明示的に適用された後で適用されます。定義済みの書式は、レポート定義の一部として保存され、各分析ツールマネージャごとに適用されます。

セルの書式

セルの書式は、特定のセル範囲に特別な書式を適用します。定義済みのセルの書式は、レポート定義の一部として保存されます。

その他の書式オプション

各表示タイプには、固有の書式設定があります。

スプレッドシート オプション

スプレッドシート オプションが大幅に拡張され、行と列のバンドの色の設定や次元階層のインデント表示を含む、多くの機能が向上しました。

チャート プロパティ

チャート プロパティに変更が加わり、サポートされるチャートの種類の拡張リストをサポートするようになりました。[チャート プロパティ] ダイアログ ボックスおよび[ユーザ設定]-[チャート プロパティ] ダイアログ ボックスに、[セットの装飾] タブが追加されました。

データ表示オプション

メイン表示パネルの右クリック メニューのデータ表示オプションに、[選択されたメンバ]と[選択されたメンバを優先] (旧バージョンでは[Show Parent (親の表示)] および[Show Parent First (親の表示を優先)]) が追加されました。

列のサイズ調整

列ごとに幅を設定でき、メイン表示パネルの右クリック メニューを使用して幅を均等にしたりデフォルトの幅に戻したりすることができるようになりました。

次元ヘッダーのソート

次元ヘッダーのソートを定義して、クエリの結果セット内の列と行ヘッダーを順序付けできます。

次元ヘッダーのソート オプションは、データソースによって決定されます。

たとえば、Hyperion Essbase ではデフォルト、昇順、降順、レベル、または世代の順に列と行を順序付けできます。デフォルトでは、データソースのアウトラインの順序で次元メンバが順序付けされます。

右クリックメニューの変更

メイン表示パネルの右クリックメニューが再編成され、次の項目にすばやくアクセスできるようになりました。

- 現在の次元の次元ブラウザ
- 現在のレポートのドリル操作オプション
- 現在のデータ オブジェクトの分析ツール マネージャ
- 関連コンテンツのリンク（リンクされたレポート オブジェクト、Hyperion Financial Management 関連コンテンツ、EIS ドリルスルーおよび他の Hyperion 統合アプリケーションなど）
- メンバの検索
- データ表示オプション（選択されたメンバの表示設定、デフォルトのラベルのモードの設定、次元ヘッダーのソート、リンクされたレポート オブジェクトのインジケータの表示、および #Missing 行、共有メンバ、ゼロ行の非表示など）
- Microsoft Excel、ファイルまたはクリップボードへのデータのエクスポート
- 印刷
- 書式オプション

電子メールによる URL の送信

現在のレポートの URL を電子メールで送信できるようになりました。レポートリンクには、レポートを HTML Web Client または Java Web Client のどちらで表示するかを指定するプロパティがあります。

Web 発行

JSP テンプレートと出力ファイルを指定することによって、現在のレポートまたはレポート グループ全体を HTML に変換できます。

この Web 発行プロセスは、レポート グループを HTML に変換するコマンドライン バッチ ユーティリティをスケジュール化して実行することで自動化できます。詳細は、19 ページの「Web 発行バッチ ユーティリティ」を参照してください。

関連コンテンツ

設定済みのアプリケーションにアクセスして次のレベルのアプリケーションにレポート内容を渡すことができます。

[関連コンテンツ] ダイアログ ボックスでは、次のような設定済みの関連コンテンツやアプリケーションへのリンクを設定できます。

- EIS ドリルスルー
- リンクされたレポート オブジェクト
- Hyperion 統合アプリケーション
- Hyperion Financial Management 関連コンテンツ

データ編集モード

データ編集モードでは、セルの値を変更し、その結果を Hyperion Essbase に書き込むことができます。

また、Microsoft Excel のスプレッドシートのセル範囲を切り取ったりコピーしたりして、Hyperion Analyzer のスプレッドシートに貼り付けることもできます。これらの編集内容は、レポートのデータソースに反映されます。

また、Hyperion Analyzer スプレッドシート間での値の切り取り、コピーおよび貼り付けが可能です。

レポートのデザイン モード

レポートのデザイン モードの機能が大幅に拡張され、より柔軟性のあるカスタム レポートが作成できるようになりました。

SQL スプレッドシート コンポーネント

Hyperion Analyzer のカスタム レポートに SQL スプレッドシートのコンポーネントを追加できるようになりました。これにより、標準の SQL 構文クエリを使用して、リレーショナル データをスプレッドシートで表示できます。

また、SQL スプレッドシート固有の要素コントロールによって、レポートを使用するユーザは列をすばやく選択できるようになりました。

別名コントローラ コンポーネント

別名コントローラ オブジェクトにより、カスタム レポートのユーザは、対応するデータ オブジェクトの説明にラベルのモードが設定されている場合に使用するための別名テーブルを指定できます。別名コントローラとデータ オブジェクト（チャート、スプレッドシートまたはピンボード）の両方を設定する必要があります。

マルチレベル コンボボックス コンポーネント

マルチレベル コンボボックス要素オブジェクトでは、次元階層に関連付けられた複数のドロップダウンリストボックスを作成できます。これらのドロップダウンリストボックスは、共通するデータソースによりレポート内の他のオブジェクトとも関連付けられています。

コンボボックスでは、そのコンボボックス内での選択項目に基づいて、以降のダイアログ ボックスに階層内の下位オブジェクトが読み込まれます。右クリック メニューの [カスタム設定] を使用して、最初の次元の選択メンバからのレベル数を指定できます。

カスタム レポート コンポーネントの書式設定

カスタム レポート コンポーネントの書式設定に新しいオプションが追加されました。

アンカー、配置、均等配置

カスタム レポートのコンポーネントは、配置するパネルに対して相対的に置かれます。アンカー プロパティにより、コンポーネントとパネル全体との相対位置が決定されます。[全領域の使用] を使用すると、未使用の領域を占有するようにオブジェクトを配置できます。

パネルに対して相対的に配置したコンポーネントは、他のコンポーネントとも相対的な位置関係を維持できます。たとえば、5つの選択ボタンをパネルの左端に配置した際に、ボタンが等間隔に配置されないこともあります。

配置および均等配置のコントロールにより、複数のコンポーネントを特定の端または中心点に対して相対的に配置できます。

不透明色と透明色

右クリックメニューの [不透明色] では、コンポーネントの透明度を設定できます。

ホットスポットは、サービス ボタンを透明にすることで作成します。透明のサービス ボタンをグラフィック画像の上に置くと、その画像領域からサービスが起動するように見せることができます。

透明度は変更することができ、ホットスポットを完全に非表示にしたり、ホットスポットに枠線だけや枠線とテキスト ラベルを表示したりできます。

書式設定の要素と選択コントロール

選択メンバの並べ替え

[メンバの選択] ダイアログ ボックスにある上矢印と下矢印を使用して、要素コンポーネント内の次元メンバ コントロールの順序を並べ替えることができます。

インデント オプション

チェックボックスおよびラジオボタン グループを作成する場合、次元階層の最上位からのメンバ レベルに基づいて、次元メンバのコントロールをピクセル単位でインデントできます。

異なるデータソースへの再リンク

次元メンバの既存コントロールのデータソースを変更するには、[再リンク] ボタンをクリックします。[データソースの選択] ダイアログ ボックスが表示され、メンバの選択を再定義できます。

動的次元メンバのコントロールの作成

次元メンバのコントロールを定義する場合、明示的にメンバ選択することも、[詳細なメンバ選択項目]を使用することもできます。[詳細なメンバ選択項目] オプションでは、コントロールにデータを読み込むこともできます。[詳細なメンバ選択項目]を使用してコントロールにデータを読み込むと、そのコントロールの選択項目は動的になります。つまり、メンバがデータベース内で追加、削除または変更され、コントロールには常に最新の情報が含まれます。

新しいサービス機能

サービスとは、Hyperion Analyzer 機能を実行するボタンやホットスポットのことです。これらのオブジェクトを使用して、次のサービスを利用できるようになりました。

- レポートを閉じる
- 保存
- ツールバーの切り替え
- サブツールバーの切り替え
- メニューの切り替え
- クリップボードへの送信
- Essbase 計算式スクリプト

- データの編集の割り当て
- Cube Navigator
- 名前を付けて保存
- 情報パネルの切り替え
- ステータスバーの切り替え
- Microsoft Excel へのエクスポート

リレーショナル アクセス

Hyperion Analyzer では、OLAP データベースとリレーショナル データベースの両方へアクセスできます。

Hyperion Analyzer クライアントからリレーショナル データにアクセスするには、次の 4 つの方法があります。

カスタム レポートの SQL スプレッドシート コンポーネント

Hyperion Analyzer のカスタム レポートに SQL スプレッドシートのコンポーネントを追加できるようになりました。これにより、標準の SQL 構文クエリを使用して、リレーショナル データをスプレッドシートで表示できます。

レポートのデザイン モードで SQL スプレッドシートを作成する場合、[SQL クエリの入力] ダイアログ ボックスが表示されます。ダイアログ ボックスの一番下にあるテキスト ボックスに標準 SQL 構文を記述するか、SQL Query Builder ウィザードを使用して SQL を作成できます。

SQL Query Builder ウィザードでは、SQL 構文のクエリで使用する要素を選択できます。このウィザードは、リレーショナル データの書式には精通していても、SQL 構文に不慣れなユーザにとって役立ちます。[列]、[フィルタ]、[グループ]、[ソート]、[割り当て] という 5 つのタブがあります。

SQL クエリのフィルタとして動的テキスト ラベルを含めることもできます。

リレーショナル ドリルスルー

リレーショナル ドリルスルーでは、OLAP データとリレーショナル データソース間の透過的な接続が可能です。必要な設定を行った後は、OLAP データベースの最下位次元 (レベル 0) から、指定したリレーショナル データへとドリルダウンすることができます。

Hyperion Analyzer では、リレーショナル ドリルスルーの定義が、Essbase データベース接続のデータベース接続プロパティとして保存されます。ユーザは独自の **Select** ステートメントと **Select** 句をドリルスルー定義の一部として定義できます。クエリの結果セットは、SQL スプレッドシートに表示されます。

リレーショナル データベース接続 (ROLAP) の定義

Hyperion Analyzer では、操作の簡単なグラフィカル インターフェイスを使用してリレーショナルデータベース接続 (ROLAP) を定義できます。このウィザードでは、リレーショナル データベースの種類とログイン認証情報の指定、リレーショナル テーブルの選択、およびデータベース接続とキューブ接続のプロパティの定義を行うためのプロンプトが表示されます。

Hyperion Analyzer クライアントによって、指定したリレーショナルデータソースに対するクエリが実行され、結果セットが収集された後で OLAP キューブの形式でデータが表現されます。

リレーショナルデータベース接続ウィザードで Teradata がサポートされるようになりました。

EIS ドリルスルー

EIS ドリルスルーは、サーバをベースにしたリレーショナル ドリルスルーの一形態です。通常のドリルスルーと同様に、OLAP データとリレーショナルデータソース間の透過的な接続が可能です。一方、通常のリレーショナルドリルスルーとは異なり、Hyperion Analyzer レポートのどの交点からでもリレーショナルレポートにドリルできます。

Hyperion Essbase の管理者は、EIS ドリルスルー レポートを作成する必要があります。リレーショナルクエリは交点に固有のメタデータとして保存され、[リンクされたレポート オブジェクト] インジケータが追加されます。インジケータの付いたセルをダブルクリックすると、OLAP レポートが指定されたリレーショナルレポートに移動します。

HTML Web Client の新しい機能

HTML Web Client ユーザ インターフェイスの変更

JSP テンプレートが一新され、HTML Web Client のグラフィカル ユーザ インターフェイスが新しくなりました。

HTML Web Client のレポート作成ウィザード

以前のバージョンの Hyperion Analyzer では、HTML Web Client のユーザは新規レポートを作成できませんでした。

リリース 6.5 では、Java Web Client と同様の新規レポート作成用ウィザードが提供されています。

レポートのレイアウトとデータベース接続を選択すると、レポートの次元が OLAP スプレッドシートとして返されます。

HTML Web Client の次元ブラウザ

HTML Web Client のユーザ向けに、HTML バージョンの次元ブラウザも用意されています。

新規レポートの作成後、情報パネルまたは [ドリル/参照] ドロップダウンリストを使用して次元ブラウザにアクセスし、データベースクエリをさらに詳しく設定できます。

次元ブラウザの改良点として、次元ノードツリーにデータベース接続名が追加され、データベース固有の詳細なメンバ選択方法や、次元ごとにラベルのモードを設定できる機能が追加されました。

関連コンテンツ

Java Web Client と同様に、HTML Web Client から設定済みのアプリケーションにアクセスして次のレベルのアプリケーションにレポート内容を渡すことができます。

[関連コンテンツ] ダイアログボックスでは、次のような設定済みの関連コンテンツやアプリケーションへのリンクを設定できます。

- EIS ドリルスルー
- リンクされたレポート オブジェクト
- Hyperion 統合アプリケーション
- Hyperion Financial Management 関連コンテンツ

インストール

インストール ウィザードが新しくなり、機能が拡張され、インストール手順も簡単になりました。

Administration Tools の認証サービス

[認証サービス] ダイアログ ボックスを使用して、Hyperion Analyzer Administration Tools からセキュリティを一元管理できるようになりました。

認証オプション

Hyperion Analyzer では、ユーザ ID とログオンを検証するために次の 3 つの方法をサポートしています。

- Analyzer 認証
- Essbase 認証
- 外部認証

認証方法は、組み合わせて使用できます。管理者は複数の方法を組み合わせ、優先順位を設定することができます。

Analyzer 認証

標準の Hyperion Analyzer 認証は、適切なユーザ名とパスワードを持つ Hyperion Analyzer ユーザであれば、常に使用できます。

Analyzer 認証では、Hyperion Analyzer のレポジトリに保存されているユーザ名とパスワードを使用してユーザを検証します。

この検証方法には、指定した有効日数を過ぎた Hyperion Analyzer のパスワードを無効にするオプションもあります。

Essbase 認証

Hyperion Essbase 認証が有効な場合、Hyperion Analyzer は指定された Hyperion Essbase サーバを使用してユーザ名とログインパスワードを検証します。

外部認証

外部認証が有効な場合は、Hyperion Analyzer は一元化され独立した認証プロバイダを使用してユーザ名とパスワードを検証します。

Hyperion Analyzer では、次の 3 つの外部認証プロバイダをサポートしています。

- LDAP (Lightweight Directory Access Protocol Directory)
- MSAD (Microsoft Active Directory、Windows 2000 sp1)
- NTLM (Microsoft Windows NT LAN Manager 4.0)

Hyperion Analyzer では、次の 4 つの外部認証プラットフォームをサポートしています。

- Microsoft Windows NT 4.0
- Microsoft Windows 2000
- Microsoft Windows XP
- UNIX

単一サインオン

外部認証の利点の 1 つに単一サインオン機能があります。外部認証されたユーザは、一度ログインした後は別のログインの手順を必要とせずに複数の Hyperion アプリケーションへアクセスできます。外部認証では、ユーザ名とパスワードを記録した暗号化トークンが Hyperion アプリケーション間で渡され、自動的にユーザを再認証するために使用されます。

グループのインポート / エクスポート バッチ ユーティリティ

インポート バッチ ユーティリティ

適切な権限を持つユーザは、有効な XML ファイル（拡張子 .aru）をインポートしてユーザ名やユーザグループのプロファイルを作成および削除できます。この XML ファイルには、ユーザ、ユーザグループ、認証方法、データベース接続および役割に関するパラメータが階層的に記述されています。

Hyperion Analyzer 5.0.3 からリリース 6.5 に移行するためのインポート機能も新たに組み込まれています。

エクスポート バッチ ユーティリティ

管理者は、Hyperion Analyzer レポジトリ情報を XML ファイルにエクスポートすることができます。これは、同時に使用しているレポジトリ間で情報を転送する必要がある場合に特に役立つ機能です。

Web 発行バッチ ユーティリティ

Web 発行は、レポートグループを HTML に変換するコマンドライン バッチ ユーティリティをスケジュール化して実行することで自動化できます。

このユーティリティでは、ユーザ側に Hyperion Analyzer スタンドアロン（Windows）クライアントがインストールされている必要があります。

Hyperion Analyzer は、事前に定義された Java Server Pages (JSP) テンプレートと出力場所を使用してレポートを Web ページに変換します。ユーザは、独自のテンプレートを設計して使用することで、Web 発行プロセスをさらにカスタマイズできます。

Essbase XTD Deployment Services (EDS) の設定

Analyzer.properties ファイルは、Essbase XTD Deployment Services (EDS) を有効にする変数をサポートしています。このサービスによって、クラスタ化された Essbase サーバ構成にアクセスできます。

Essbase サーバのクラスタとは、異なるコンピュータ (マルチプロセッサ システムの場合は異なる CPU) 上で実行され、同一の Essbase アプリケーションのコピー (複製) を実行する一連のサーバ、または同一のアプリケーションの複製を実行する単一の Essbase サーバ、あるいはその両方を組み合わせたものです。

詳細は、『Hyperion Analyzer Administrator's Guide』(管理者ガイド、英語版) を参照してください。

HTML テンプレート、トークン、タグおよびアクションライブラリの改訂

Hyperion Analyzer JSP テンプレートで使用されるトークン、タグ、アクションのライブラリが拡張され、機能が追加されました。これらのコンポーネントを共有して、HTML Web Client と Web 発行バッチユーティリティのカスタム JSP テンプレートを設計できます。詳細は、『Hyperion Analyzer Administrator's Guide』(管理者ガイド、英語版) を参照してください。

管理ツール API

Hyperion Analyzer API Toolkit を使用すると、Web 開発者は Hyperion Analyzer Java Web Client の画面表示および機能をカスタム Web アプリケーションに統合できます。

Administration Tools Client によって提供される機能が、カスタム Web アプリケーションでも利用できるようになりました。また API が拡張され、Administrator API のコンテンツも含まれるようになりました。

開発者は動作の実証されているコンポーネント、ダイアログボックスおよび API 呼び出しを使用してカスタム分析アプリケーションを迅速に作成できるので、企業は経費と時間を節約でき、信頼性も向上させることができます。